

核兵器をなくそう！ 被爆者を支援しよう！

核兵器廃絶 ネットワークみやぎ

核廃絶ネット通信

第10号

2024年

10月30日発行

祝日本被団協 ノーベル平和賞受賞！



ノーベル平和賞受賞にあたって



この度は、たくさんの方々からお祝いの電話やメールをいただき、本当にありがとうございました。この間、何年もノミネートされていたものの受賞を逃してしまいましたので、今年もないだろうと思っていましたので、本当に驚きました。

真っ先に浮かんだのは、亡くなった被爆者の先人たちの顔でした。このニュースを聞くことなく亡くなった被爆者のことを考えると、マスコミのインタビューに思わず、「うれしいけれどももっと早くこの賞が欲しかった。」と答えていました。被団協の中でも、みんな私よりも年下で、運動をしていない人もいますし、被団協の歴史をしっかりと分かっている方も減ってきました。だから、みんながいる時にもらいたかったという思いが強いのです。皆さんが、「受賞おめでとうございます」「涙が出るくらいうれしいです」と言っているときに、インタビューを見て、「木村さんは怒っている」「木村さんらしい」と思われたと思います。

今、時間の経過とともに受賞の喜びがじわじわと大きくなってきています。私も随分、この運動を続けてきたものだ、感慨深い思いです。12月のオスロでのノーベル賞授賞式に参加することを決めました。今後とも皆様のご支援のほど、よろしくお願いいたします。

日本被団協代表理事

木村緋紗子



10月22日のネット事務局会議
でお祝い会を行いました。

11月の総会でもお祝いをした
と思いますので、ぜひ皆さん
ご参加ください！



核廃絶 PesceWave in みやぎ Vol.4

9月22日(日)4回目となるPeaceWaveを実施しました。最初は、うたごえ協議会の皆さんの平和の歌で、「原爆ゆるすまじ」「ヒロシマの有る国で」「約束」「翼をください」など、参加者と一緒に歌声を響かせました。雨が降っていましたが、公園の屋根付きのステージでみんなで歌い、うとうしい気分は吹き飛びました。



ミニ集会では、まず木村代表が開会あいさつで「唯一の被爆国が核兵器禁止条約に入らないことは本当に悔しい思いだ。皆さんで力を合わせて変えていきましょう」と訴えました。



県内署名呼びかけ人から、宮城革新懇の寺澤事務室長があいさつをしました。毎月月末に取り組んでいる「核兵器廃絶市民行進」が500回を超えたこと、第2回国連軍縮総会の年から始まったという歴史を紹介し、参加を呼びかけました。

続いて、決意表明では平和友好祭実行委員会の渡邊副委員長が、来年の被爆80年には広島・長崎に多くの仲間を送りたいと述べました。原水協からは川名事務局長が、今年の原水禁世界大会の報告と来年3月の締約国会議への参加を表明しました。

最後に全員でもう一度「青い空は」を歌い、ピースコールをして終了しました。雨が強くパレードと署名活動は中止にしましたが、東日本放送が取材に来て夕方のニュースで流してくれたので、市民へのアピールになりました。参加者は30名でした。

10月22日 署名行動ではノーベル平和賞の効果が!

日本被団協がノーベル平和賞を受賞した後の最初の街頭宣伝・署名行動。選挙期間中ということもあり参加者は7名と少なかったのですが、チラシの受け取りが大変良く、「ノーベル平和賞よね、すごいですよね」と対話もはずみました。署名も45筆も集約できました。今回の受賞の効果を大きく感じる宣伝となりました。



今、核兵器廃絶の大きな波が来ています。今回の総選挙でも、核共有か廃絶かも争点に入ってきたことは重要です。日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めて、さらに運動を強めてまいりましょう。ぜひ皆さん、11月22日の総会に結集して今後の方針を確認しましょう!

